

## 平和のウムイ地域版セット

当館では、復帰40周年の記念事業として、平成24年度～25年度にかけて「子や孫につなぐ平和のウムイ事業」を行いました。その際に収録した350件の沖縄戦体験証言の中から、計57件の証言を選び出して、県内の6つの地域ごとに分けて、DVD・写真パネル・証言集を作成しました。それがこの地域版セットになります。

### 1 北部地区セット (DVD1枚、写真パネル6点、証言集6点)

DVD (北部)	証言者 ※敬称略	主題・副題	体験分類	映像時間
①K066	備瀬 善勝 ビセ ヨシカツ	当時5歳でも、戦争が強烈なものだったから今でも覚えている ～世の中の動きをしっかりと見ないとまた同じように戦争をしてしまうよ～	母・子供	10分40秒
②K118	照屋 盛行 テルヤ セイコウ	幼い目から見た戦争の光景、兵隊たち～絶対に軍隊は人を守りきれない～	母・子供	9分53秒
③K143	比嘉 君子 ヒガ キミコ	アメリカ兵と物々交換で飢えをしのいだ～島を救うのは島の人。どこでも通用する人間に～	一般住民	6分1秒
④K027	赤嶺 光子 アカミネ ミツコ	二人の兄はいまだ消息不明～いつまでも平和が続くように願う～	母・子供	11分18秒
⑤K287	儀間 フサエ ギマ フサエ	ゴミのように埋められて・二見マラリア～孫の姿に「生きててよかった」～	母・子供	7分59秒
⑥K270	東江 康治 アガリエ ヤスノル	少年兵として参加した戦争～多くの若者が命を落としてしまう悲劇～	男子学徒隊	9分41秒

### 2 中部地区セット (DVD1枚、写真パネル6点、証言集6点)

DVD (中部)	証言者 ※敬称略	主題・副題	体験分類	映像時間
①K137	上地 武雄 ウエチ タケオ	シムクガマで助けられた命 ～加害者も被害者も、兵隊も住民も、区別ないからね～	母・子供	11分10秒
②K102	宮城 善正 ミヤギ ゼンショウ	生き別れの母親に偶然に再会 ～困っている他人にかまう余裕などなかった～	母・子供	9分40秒
③K054	宮城 宏茂 ミヤギ ヒロシゲ	真志喜の壕のおかげで助かった命～戦争はもう絶対やってはいけないね～	母・子供	5分27秒
④K033	大宜味 朝俊 オオギミ チョウシュン	無駄に命をなくす戦争を起こさないように	母・子供	11分18秒
⑤K034	安里 利子 アサト トシコ	米兵からも日本兵からも逃げてお墓で暮らした～英語と足音が聞こえた時はブルブル震えたよ～	母・子供	7分28秒
⑥K031	米須 千代子 コメス チヨコ	厳しい道程となった島尻への避難～ムチルデーゾー (命が大事だよ)～	母・子供	9分54秒

### 3 那覇（南部）地区セット（DVD1枚、写真パネル11点、証言集11点）

DVD	証言者 ※敬称略	主題・副題	体験分類	映像時間
①K015	瑞慶覧 長方 ズケラン チョウホウ	投降しようとする民間人を虐殺 ～語りつぐことが戦争を防ぐ原動力に～	母・子供	16分16秒
②K020	久保田 千代子 クボタ チョコ	目の前で見た慰安室 ～人間が人間でなくなる戦争～	一般住民	11分44秒
③K052	大城 ヨシ子 オオシロ ヨシコ	戦争はするものではない。それに尽きる。 ～一人ひとりが利己主義を捨て、みんな仲良くなるのが平和につながる～	母・子供	9分58秒
④K116	知念 栄 チネン サカエ	空腹でハブやゴキブリも口にした ～生きていることだけでありがたい～	母・子供	10分5秒
⑤K024	伊波 孝眞 イハ タカマサ	空襲で那覇の街が真っ黒に ～傷付いた人には水がどんなに大切であるか～	母・子供	12分52秒
⑥K023	高江洲 さよ タカエス サヨ	たまたま乗り遅れた対馬丸は沈んでしまった ～生きてよかった～	母・子供	10分19秒
⑦K199	照屋 苗子 テルヤ ナエコ	砲弾から逃げる中で感じた母の強さ ～感情を奪い去る戦争～	母・子供	9分46秒
⑧K240	新垣 源吉郎 アラカキ ゲンキチロウ	死を覚悟した軍国青年 ～もう一度、母に会いたい～	男子学徒隊	9分47秒
⑨K235	與古田 光順 ヨコタ コウジュン	かわいい妹たちは自分の名を叫びながら摩文仁で死んでいった ～「平和の島沖縄」を世界に発信したい～	母・子供	10分0秒
⑩K043	大城 藤六 オオシロ トウロク	子どもと年寄りが戦争では一番犠牲になる ～最後の激戦地となった真栄平で～	母・子供	9分26秒
⑪K146	宮城 巳知子 ミヤギ ミチコ	ずるせん看護隊として第一線で多くの友を亡くした辛さ～天災は防げなくても人災は防げる、不平等から戦争は起こるんだよ～	女子学徒隊	9分1秒

「子どもにつく平和のウイ事業」  
家族の過去への想像力、未来の平和への創造力。

**本島 南部**

**証言者：大城藤六（おおしろとうろく）**  
昭和5年（1930年）8月15日生 当時高等科2年生（今の中学2年生）

**インタビュー：義理の兄弟**

子どもと年寄りが戦争では一番犠牲になる  
～最後の激戦地となった真栄平で～

大きな攻撃を受けていなかった真栄平地区では、多くの住民は、分散して順に避難していた。ところが、5月26～27日（水）に日本軍が攻めて来て、掃蕩を追い出された。中学生だった自分は、いろいろな情報を知り、自分が軍からの安全な避難場所の指定はなかったと記憶、砲撃も重くなって行き場をなくした住民たちは地区にとどまることができなかった。軍による住民へのいじめが続き、ついには虐殺が行われた。

真栄平地区で、日本軍砲隊が周辺で中絶する中を避難する米軍機員（1945年4月22日）

沖縄県平和教育資料館

「子どもにつく平和のウイ事業」  
家族の過去への想像力、未来の平和への創造力。

**本島 南部**

**証言者：伊波孝眞（いは たかまさ）**  
昭和12年（1937年）5月12日生 当時7歳

**インタビュー：子**

空襲で那覇の街が真っ黒に  
～傷付いた人には水がどんなに大切であるか～

沖戦が始まる1～2年前から那覇の港でアメリカ兵捕虜を見かけて戦争の臭いを感じていたが、10・10空襲で家を失って初めて実感。首里の親戚を頼って避難するも、母を日本兵に追い出され、食糧も取り上げられた。摩文仁へ向かう途中、目の前に砲弾が落ち、母が命を失った。水をせがむ子ども達のために井戸へ向かった父もアメリカ兵の銃弾に倒れた。亡くなる直前に飲んだ水を「ごめんごめん」と叫びながら、涙ながらの祈りを込めた。取り残されたままの自分の身を今も忘れずにいる。

米軍による那覇港周辺の様子（1945年5月）

沖縄県平和教育資料館

パネル

### 証言集

●証言者：知念栄（ちねん さかえ）  
昭和13年（1938年）11月17日生 当時6歳 国民学校  
インタビュー：学生（看護高校）

空腹でハブやゴキブリも口にした  
～生きていることだけでありがたい～

言葉で体験。当時5～6歳。言葉では想像の範囲を超えて行っては居ないといふが、10・10空襲では想像以上に凄惨に。部屋が焼け、逃げ遅れるのを覚悟。その瞬間、母と弟妹とへ逃げ遅れまいと。母、弟と空襲で逃げ、ハブやゴキブリ、臭いのある食べ物まで口にした。マリアも臭い食べ物も食べてない。家族全員で避難を促さされているだけで有り難いと感していた。避難先でからの事は後で思い出すことがあった。

（5～6歳で体験。当時児童館で、10・10空襲前に避難して食糧を見た時のこと）  
母は昭和18年夏ごろまでと覚えていない。今の避難所、避難先は不明。避難先は不明で、その避難先は不明で、今は不明でいるところがある。その頃、母と弟妹と空襲で逃げ、ハブやゴキブリ、臭いのある食べ物まで口にした。マリアも臭い食べ物も食べてない。家族全員で避難を促さされているだけで有り難いと感していた。避難先でからの事は後で思い出すことがあった。

（5～6歳で体験。当時児童館で、10・10空襲前に避難して食糧を見た時のこと）  
母は昭和18年夏ごろまでと覚えていない。今の避難所、避難先は不明。避難先は不明で、その避難先は不明で、今は不明でいるところがある。その頃、母と弟妹と空襲で逃げ、ハブやゴキブリ、臭いのある食べ物まで口にした。マリアも臭い食べ物も食べてない。家族全員で避難を促さされているだけで有り難いと感していた。避難先でからの事は後で思い出すことがあった。

4 久米島地区セット (DVD 1枚、写真パネル 11点、証言集 11点)

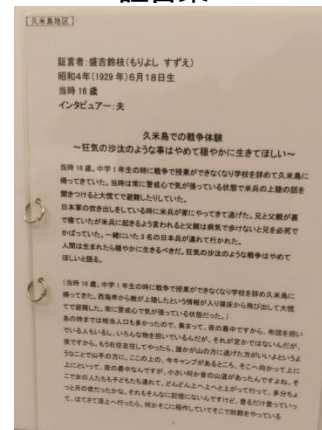
DVD	証言者 ※敬称略	主題・副題	体験分類	映像時間
①K125	喜久永 米正 キクナガ ヨネマサ	米軍よりも日本軍が怖かった ～中庸の精神をもって友だちを大事に～	母・子供	6分35秒
②K148	平良 静江 タイラ シズエ	空襲の時が一番、怖かった (地域によって異なった久米島の戦争) ～仲良くしたら平和になるさ～	一般住民	6分27秒
③K161	佐久田 直広 サクダ ナオヒロ	米軍案内係をスパイ容疑で殺す ～軍隊がいたから一般民も巻き添えに～	母・子供	9分56秒
④K151	本永 昌健 モトナガ ショウケン	久米島に上陸したアメリカ軍より日本軍の隊長が怖かった	母・子供	9分31秒
⑤K130	盛吉 ハツ モリヨシ ハツ	戦地にいる兄の無事を祈り続けた母 ～私、今でもお母さんにあやまっている。孝行できなかつたって～	母・子供	9分13秒
⑥K154	安村 政子 ヤスマラ マサコ	英語が話せる人がいたおかげで助かった ～この世の中がこのままであるように～	一般住民	7分41秒
⑦K127	盛吉 鈴枝 モリヨシ スズエ	久米島での戦争体験 ～狂気の沙汰のような事はやめて穏やかに生きてほしい～	母・子供	9分29秒
⑧K149	山川 キヨ ヤマカワ キヨ	恐怖だった防空壕での生活 ～アメリカ兵がこないかと不安だった～	一般住民	6分15秒
⑨K131	山里 昌朝 ヤマザト マサトモ	横柄で恐ろしい日本兵 ～基地があるから戦争がある～	一般住民	9分7秒
⑩K153	中村 昌昭 ナカムラ マサアキ	カズオ君を忘れない!! ～どの国の人も仲良く～	母・子供	10分51秒
⑪K124	譜久里 廣貞 フクザト コウテイ	艦砲射撃から久米島を救ってくれた先輩 ～沖縄戦の教訓を次の世代にも伝えてもらいたい～	男子学徒隊	7分34秒



パネル



証言集



5 宮古島セット ((DVD1枚、写真パネル11点、証言集11点))

DVD	証言者 ※敬称略	主題・副題	体験分類	映像時間
①K179	與那覇 トヨ ヨナハ トヨ	防空壕で凌いだ空襲、食べ物は自給自足 ～戦争が終わって、今は幸せ～	母・子供	5分33秒
②K180	久貝 義雄 クガイ ヨシオ	母と姉の言いつけをひたすら守って生き延びた。 ～戦争で辛かったのは飢えと乾き～	母・子供	6分41秒
③K236	友利 恵勇 トモリ ケイユウ	授業もなく掩体壕づくり、空襲で食事のままならず ～殺し合うのではなく、助け合わなければ～	母・子供	8分37秒
④K172	上里 栄 ウエザト サカエ	マラリアや食糧不足で苦しんだ南静園での体験 ～ハンセン病患い戦争体験、こういった子供が居たことを忘れないで～	母・子供	9分46秒
⑤K176	上地 キク ウエチ キク	忘れられない、壁に張り付いた隣のおばあの肉片 ～偉い大臣さんに、戦争はやらないという皆の願いが届くなら～	一般住民	9分25秒
⑥K171	浜川 實 ハマガワ ミノル	戦後も続く被害。爆薬で失明した父。 ～今の若い人たち全員に、平和は大事だよと言わないといけない～	母・子供	8分30秒
⑦K167	久貝 シゲ クガイ シゲ	人の肉の破片を箸でつまんで埋葬した。 ～永遠に平和でいてほしい。戦争は本当にあった出来事～	母・子供	7分4秒
⑧K168	本村 キミ子 モトムラ キミコ	女子挺身隊、働きずくめの日々、宮古島 ～「弁当を食べてから死のう」皆がその一言に救われた～	女子挺身隊	6分6秒
⑨K170	伊良部 繁夫 イラブ シゲオ	海上で燃えさかるたくさんの炎 ～物も、人も、命も何でも大事にする心を～	母・子供	5分3秒
⑩K169	花城 愛子 ハナシロ アイコ	食糧難の台湾疎開と高熱からの生還 ～もう、戦争の体験をさせてはいけない～	母・子供	6分39秒
⑪K177	翁長 良子 オナガ ヨシコ	敗戦後、1人ずつみつかからないように船にのり台湾から引き揚げて ～悲惨で残酷な戦争が起きないように子、孫、末代まで～	一般住民	5分25秒

【子や孫につなぐ平和のウミイ事業】  
家族の過去への想い、未来の平和への創造力。

**宮古郡 宮古島**

証言者: 本村キミ子 (もとむらきみこ)  
大正15年(1926年)8月8日生 当時18歳  
インタビュー: 社会人(若者チーム・玉元三奈美)

女子挺身隊、働きずくめの日々、宮古島  
～「弁当を食べてから死のう」皆がその一言に救われた～

宮古島の軍飛行場で飛行機を格納する掩体壕(えんたいこう)や陣地作りの作業をしていた。家の畑の手入れをするために作業を休むと、家まで押しかけた班長に背中を突かれたら裸足で作業現場まで連行された。  
終戦直後「死のう」死ねない」と女子挺身隊の中で意見が激れる中、中隊長の「弁当を食べてから死のう」の言葉に救われた。  
戦争は命取りだ。

日本軍飛行機格納場 (1945年9月12日撮影)

沖縄平和教育資料館

パネル

【子や孫につなぐ平和のウミイ事業】  
家族の過去への想い、未来の平和への創造力。

**宮古郡 宮古島**

証言者: 浜川 實 (はまがわみのる)  
昭和10年(1935年)5月10日生 当時9歳  
インタビュー: 若者チーム(玉元 三奈美)

戦後も続く被害。爆薬で失明した父。  
～今の若い人たち全員に、平和は大事だよと言わないといけない～

宮古で生まれ育った浜川さん。最初の空襲を戦争だとは思わず、攻撃する米軍機に向かって手を振っていた。  
その後米軍機は、パイロットの顔が分かるほど地上すれすれに攻撃してきた。  
戦後も被害は続く。米軍が捨てた爆薬で足を踏むことが一般化し、浜川さん父も爆薬をいじっている間に失明し失明する。

ピストルの弾倉を分けられている日本兵 (1945年9月28日撮影)

沖縄平和教育資料館

証言集

【久米島地区】

証言者: 渡吉鉄枝(もりよし すずえ)  
昭和4年(1929年)6月18日生  
当時16歳  
インタビュー: 一夫

久米島での戦争体験  
～狂気の沙汰のような事はやめて穏やかに生きてほしい～

当時16歳、中学1年生の時に戦争で授業ができなくなり学校を休めて久米島に帰って来た。班長は常に警戒心で気が張っている状態で兵の上陸の話を聞きながら大騒ぎで避難していた。  
日本軍の警戒心は、いつも警戒心のある父親は警戒心を掛けず逃げないとは言えなかった。一瞬は16歳の日本軍が連れて行かれた。人間は生まれながらに生きるべき。狂気の沙汰のような戦争はやめてほしいと願う。

当時16歳、中学1年生の時に戦争で授業ができなくなり学校を休めて久米島に帰って来た。班長から逃げた上陸した日本軍から警戒心で張り詰めて大騒ぎで避難した。常に警戒心で気が張っている状態で兵の上陸の話を聞きながら大騒ぎで避難していた。  
日本軍の警戒心は、いつも警戒心のある父親は警戒心を掛けず逃げないとは言えなかった。一瞬は16歳の日本軍が連れて行かれた。人間は生まれながらに生きるべき。狂気の沙汰のような戦争はやめてほしいと願う。

【当時16歳、中学1年生の時に戦争で授業ができなくなり学校を休めて久米島に帰って来た。班長から逃げた上陸した日本軍から警戒心で張り詰めて大騒ぎで避難した。常に警戒心で気が張っている状態で兵の上陸の話を聞きながら大騒ぎで避難していた。  
日本軍の警戒心は、いつも警戒心のある父親は警戒心を掛けず逃げないとは言えなかった。一瞬は16歳の日本軍が連れて行かれた。人間は生まれながらに生きるべき。狂気の沙汰のような戦争はやめてほしいと願う。】

6 石垣島地区セット (DVD1枚、写真パネル12点、証言集12点)

DVD	証言者 ※敬称略	主題・副題	体験分類	映像時間
①K261	潮平 俊 シオヒラ トシ	戦争と平和の意味を問い続ける ～一番被害を被るのは子ども～	母・子供	10分8秒
②K237	新本 トヨ アラモト トヨ	歩けるようになったとき、娘は墓の中だった・石垣マラリア ～「娘は親孝行だから先に逝った」～	母・子供	9分29秒
③K213	潮平 正道 シオヒラ マサミチ	マラリアと戦った八重山の人々 ～歴史から学び、これからの平和を考えて欲しい～	男子学徒隊	9分38秒
④K215	浦本 昇 ウラモト ノボル	病気の母と逃げた空襲とマラリアの被害 ～世界が一つになって平和を繋ぎたい～	母・子供	5分30秒
⑤K297	仲山 忠享 ナカヤマ チュウキョウ	軍国主義教育と石垣島での避難体験、そしてマラリア ～平和を大事に～	男子学徒会	11分58秒
⑥K219	南 全昌 ミナミ ゼンショウ	爆撃から逃れてもマラリアで命を落とした ～戦争は様々な形で家族を奪う～	母・子供	10分5秒
⑦K218	上原 好子 ウエハラ ヨシコ	家族を次々にマラリアで亡くすなか生き延びて ～思い出すのは辛いけど、子どもたちに体験を伝えていかなくては～	母・子供	11分59秒
⑧K205	田本 徹 タモト テツ	石垣島でのマラリア渦・母は乳飲み子を残して ～いつまで生きられるかわからないが、風化させたくない～	母・子供	8分16秒
⑨K226	大工 スミ子 ダイク スミコ	「ひもじい」妹は盗んだご飯を飲み込めず・石垣島マラリア禍 ～「おかげさまで、一人だけ生き残りました」～	母・子供	9分28秒
⑩K249	石垣 博孝 イシガキ ヒロタカ	戦争と教育 ～平和の尊さを教育するのが大切～	母・子供	9分20秒
⑪K220	田本 房子 タモト フサコ	野戦病院での従軍体験 ～戦争は大人のいじめ～	母・子供	9分59秒
⑫K225	宮良 祐成 ミヤラ ユウセイ	突撃していく特攻兵たちを間近で見ていた ～戦争とは人を殺すこと、世の中を破壊すること～	母・子供	8分45秒

【子や孫につなぐ平和のウミイ事業】  
家族の過去への想像力、未来の平和への創造力。

**八重山郡 石垣島**

証言者: 田本房子 (たもと ふさこ)  
昭和3年(1928年)5月29日生 当時16歳  
インタビュー: 社会人

野戦病院での従軍体験  
～戦争は大人のいじめ～

当時16歳、国立八重山高等学校卒業後、教育に家族と一緒に避難したら、マラリアや食糧不足に悩む中、軍一隊なら軍が食糧や薬の心配をするから(軍)に行きたくないと、戦後、家に戻ると娘は弟がマラリアにかかったり、後に母はマラリアが元でなくなった。避難中に親戚に預けられたおぼろげマラリアでなくなった野戦病院ではマラリア患者と下痢患者が多かったが薬も不足し、きつい後には石炭を混ぜた薬を使用したようになっていた。他にも有難いのが病室の消毒を受けることもあった。戦争は大人のいじめ、ほんのりいじめはなく、仲よみんがが笑って暮らしたいと思う。

野戦病院の様子(1945年9月24日撮影)

石垣島市立歴史資料館

【子や孫につなぐ平和のウミイ事業】  
家族の過去への想像力、未来の平和への創造力。

**八重山郡 石垣島**

証言者: 石垣博孝 (いしがき ひろたか)  
昭和12年(1937年)4月18日生 当時7歳  
インタビュー: 友人

戦争と教育  
～平和の尊さを教育するのが大切～

当時小1年生、教育教諭(天皇制国家の歴史、教育の基本理念を説いた戦前)で軍国主義に利用された)を引用できるほどだった。兵隊が遠くにあつたため近くに爆撃が落ちることもあり、空襲ですぐ近くで物理的避難の兵士が爆撃を受け死にました。避難するが「敵に勝たない、母がマラリアにかかるとなる、まわりで死体をきんさんと押さえることが出来ないような状況で、また子供たちも諸手をあげて兵隊になりたと言っていたのが印象的だった。

博孝へ授けられた戦前時代の地図を頼りに(1945年10月1日撮影)

石垣島市立歴史資料館

証言集

証言者: 田本房子 (たもと ふさこ)  
昭和3年(1928年)5月29日生  
当時16歳  
インタビュー: 社会人

野戦病院での従軍体験  
～戦争は大人のいじめ～

当時16歳、国立八重山高等学校卒業後、教育に家族と一緒に避難したら、マラリアや食糧不足に悩む中、軍一隊なら軍が食糧や薬の心配をするから(軍)に行きたくないと、戦後、家に戻ると娘は弟がマラリアにかかったり、後に母はマラリアが元でなくなった。避難中に親戚に預けられたおぼろげマラリアでなくなった野戦病院ではマラリア患者と下痢患者が多かったが薬も不足し、きつい後には石炭を混ぜた薬を使用したようになっていた。他にも有難いのが病室の消毒を受けることもあった。戦争は大人のいじめ、ほんのりいじめはなく、仲よみんがが笑って暮らしたいと思う。

博孝へ授けられた戦前時代の地図を頼りに(1945年10月1日撮影)

石垣島市立歴史資料館